

# 白鳥庭園の蜜源リレー

白鳥庭園では、これまでに32種のチョウが確認されています(cf.チョウマップ)。

これらのチョウの多くは、下記のような花蜜を吸っています。このほか、樹液などを蜜源にしているチョウもいます(cf.チョウの蜜源)。

4-5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
------	----	----	----	----	-----	-----



秋のアゲハ類は、オミナエシ、ヒガンバナなどに辛うじて支えられながらも、11月にはほとんど姿を消します。2021年は、秋の蜜源強化策としてフジバカマを植えたところ、他のチョウとともにアゲハ類の吸蜜もみられました。

## ツツジ

●ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハなど

## ノアザミ

●ナミアゲハ、他多数



白鳥庭園の**アゲハ類**は、従来5月がピークでその後影が薄くなりました。2021年は、梅雨時の蜜源不足解消のためノアザミを植えたところ高原状態が持続し、ヤブカラシ(7~9月の蜜源)にうまくバトンタッチできました。



ヒガンバナ  
●ナミアゲハ  
●クロアゲハなど



## シャリンバイ

●アオスジアゲハ  
●ナミアゲハなど

## センダン

●アオスジアゲハ  
●ナミアゲハなど

## オミナエシ

●アオスジアゲハ  
他多数

## フジバカマ

●アオスジアゲハ  
他多数



従来、白鳥庭園の**モンシロチョウ**は梅雨時には姿を消していました。2021年は、新たに植えたノアザミやソバのおかげで、モンシロチョウは夏場まで健在でした。そして秋にもフジバカマやツワブキで吸蜜する姿が確認され、出現期間が大きく伸びました。



○モンシロチョウ  
他多数



○モンシロチョウ  
他多数

## タンポポ

○モンシロチョウ  
○キタキチョウなど

## カタバミ

△ヤマトシジミ  
○モンシロチョウなど

## ノアザミ

○モンシロチョウ  
他多数

## ソバ

○モンシロチョウなど



4-5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

**カタバミ**

△ヤマトシジミ  
○モンシロチョウなど



ヤマトシジミ

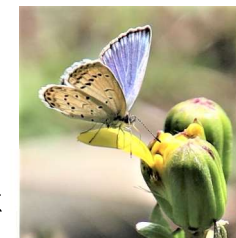
ヤマトシジミの食草・蜜源はカタバミです。小さな花ですが、春から秋までヤマトシジミの出現期間を通して息長く花をつけます。

ヤマトシジミは秋になると急増します。そんな時期に頼りになるのがハギです。蜜源リレーのバトンは、その後ノコンギクやフジバカマ、ツワブキに引き継がれます。



**ノコンギク**

△ヤマトシジミ、ウラナミシジミ  
▲イチモンジセセリ  
○キタキチョウなど



**タンポポ**

○モンシロチョウ  
○キタキチョウなど



キタキチョウ



**秋のチョウ**（キタキチョウ、ウラナミシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリなど）の蜜源は、ハギ（8-9月）に始まりツワブキ（10-12月）で締めくくられます。

両者の間を埋める蜜源にはノギク類がありますが、2021年にはフジバカマも加わり、厚みを増しました。



**凡例**

上段 蜜源

下段 吸蜜するチョウ

ゴシック：実地に確認

細字：ネット画像で調査

- アゲハチョウ科
- ◆ タテハチョウ科
- シロチョウ科
- △ シジミチョウ科
- ▲ セセリチョウ科



ツマグロヒョウモン



キマダラセセリ

**ノアザミ**

●ナミアゲハ  
○モンシロチョウ  
○キタキチョウ  
◆ツマグロヒョウモン  
▲イチモンジセセリ  
▲キマダラセセリ  
など



ヒメアカタテハ

**オミナエシ**

●アオスジアゲハ  
◆ツマグロヒョウモン  
◆ヒメアカタテハ  
他多数



ウラナミシジミ

**ハギ**

△ヤマトシジミ  
△ウラナミシジミ  
○キタキチョウ  
▲イチモンジセセリ  
▲チャバネセセリ  
など



アサギマダラ

**フジバカマ**

●アオスジアゲハ  
△ヤマトシジミ  
○モンシロチョウ  
○キタキチョウ  
◆ツマグロヒョウモン  
◆アサギマダラ  
▲イチモンジセセリ  
など



キタテハ



チャバネセセリ

**ツワブキ**

△ヤマトシジミ  
△ウラナミシジミ  
○モンシロチョウ  
○キタキチョウ  
◆ツマグロヒョウモン  
◆キタテハ  
▲チャバネセセリ  
など

# 徳川園（日本庭園内）の蜜源リレー

徳川園では、これまでに21種のチョウが確認されています（cf. チョウマップ）。  
これらのチョウは、庭園内の花蜜や樹液を吸うとともに、隣接地の蜜源も利用しています。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
----	----	----	----	----	-----	-----



クロアゲハ

## ツツジ

●ナミアゲハ、クロアゲハなど



## オニユリ

●ナミアゲハ、モンキアゲハなど



アオスジアゲハ

## カクレミノ

●アオスジアゲハなど



## ヒガンバナ

●ナミアゲハ、クロアゲハなど

**ツマグロヒョウモン**は市街地でもよく見かけるチョウですが、徳川園ではあまり多くありません。  
ポタン園周辺で見かけることが多いのですが、秋には、ハマギクやツワブキなどを蜜源にしているようです。



## センダン

●アオスジアゲハ、ナミアゲハなど

徳川園の**アゲハ類**は、ツツジやセンダンなどを蜜源として4月末～5月にピークを迎えます。  
その後は、オニユリ（溪流中溜りの南）があるものの全体に蜜源が乏しくなります。  
カクレミノ（芝生広場の北部）の開花期にアオスジアゲハの姿が一時増加しますが、その後は秋に向かって再び影が薄くなります。



ツマグロヒョウモン

## ハマギク

◆ツマグロヒョウモン  
◆アカタテハ、キタテハ  
△ヤマトシジミなど



## ツワブキ

◆ツマグロヒョウモン  
○キタキチョウ  
△ヤマトシジミ 他多数



ヤマトシジミ

## カタバミ

△ヤマトシジミ  
○モンシロチョウ

**ヤマトシジミ**は、カタバミを食草・蜜源とします。  
カタバミは雑草扱いされがちですが、植込みの根元や花菖蒲園水路脇などで控えめながらしぶとく生き延び、ヤマトシジミを支えます。  
ヤマトシジミは秋に急増しますが、この時期にはハギやツワブキなども咲き、蜜源に不自由しなくなります。



## ハギ

△ヤマトシジミ  
△ウラナシジミ  
▲イチモンジセセリ  
○キタキチョウ ほか

## カタバミ

△ヤマトシジミ  
○モンシロチョウ





# 徳川園隣接地（広義の徳川園区域内）の蜜源リレー

徳川園（日本庭園）の南約40mの所に花壇（蓬左文庫前）があります。チョウの往来可能な範囲なので、ここでの吸蜜状況も調べてみました。  
また、日本庭園北側の公園でも、日本庭園からの飛来と思われるチョウが確認されました。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
----	----	----	----	----	-----	-----



モンシロチョウ

## ガザニア

- モンシロチョウ
- モンキチョウ
- △ヤマトシジミ
- ◆ツマグロヒョウモンなど



## ヒメイワダレソウ

- モンシロチョウ
- モンキチョウ
- △ヤマトシジミ、ベニシジミ
- ◆ツマグロヒョウモンなど

徳川園の**モンシロチョウ**は5月後半がピークで、花菖蒲園周辺や溪流中溜りの周辺でよく見られます。  
しかしこれらの場所も、蜜源が潤沢というわけではありません。不足を補っていると思われるのが、蓬左文庫前の花壇です。5月後半～6月上旬、ガザニア、イチゴ、ヒメイワダレソウの白い花で吸蜜するモンシロチョウが確認されました。また秋にも、シュウメイギクやポーチュラカで吸蜜していました。これらの花は、ツマグロヒョウモンなど他のチョウも支えています。



## シュウメイギク

- モンシロチョウ
- △ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ルリシジミ
- ◆ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、キタテハ、●ナミアゲハなど



## ポーチュラカ

- (ハナスベリヒユ)
- モンシロチョウ
- △ヤマトシジミ、ベニシジミ
- △ツバメシジミ
- ▲イチモンジセセリ
- ◆ツマグロヒョウモン
- ◆ヒメアカタテハ
- ナミアゲハ
- モンキアゲハなど



## イチゴ

- モンシロチョウ
- △ベニシジミ
- ◆ツマグロヒョウモンなど



クロマダラソテツシジミ



ツマグロヒョウモン



ヒメアカタテハ

## ポーチュラカ（ハナスベリヒユ）

- △ツバメシジミ、◆ツマグロヒョウモン、◆ヒメアカタテハ 他多数



◆テングチョウ

花壇の一角で吸水

徳川園においては、総じて梅雨時～夏場の蜜源が不足しており、隣接地の花壇によってもカバーできていません。  
また、○モンシロチョウ、◆タテハチョウ類が、隣接地で支えられる度合いが比較的高そうです。



◆コムラサキ

9月、徳川園北側のグラウンドで**コムラサキ**が吸水していました。  
コムラサキの食草はヤナギで、蜜源は樹液・獣糞です。ヤナギは龍仙湖の池端に3本あることから、庭園内で羽化した後に北側の公園で吸水（塩分補給）していたと思われます。